

NSK

日本精工株式会社 2022年3月期 第3四半期 決算説明会

2022年2月4日
代表執行役社長・CEO
市井 明俊

本資料には、業績見通し及び事業計画等を記載しています。
それらにつきましては、各資料の作成時点における経済環境や事業方針などの
一定の前提に基づいて作成しています。従って、実際の業績は、様々な要因により
業績見通しとは異なる結果となりうることをご承知おき下さい。

Copyright NSK Ltd. All Rights Reserved.

皆さん こんにちは お忙しい中お時間をいただきありがとうございます。
今回もリモートでの決算説明会になりますがよろしく申し上げます。

それでは、資料の3ページをご覧ください。

1. 2022年3月期 第3四半期実績
2. 2022年3月期 通期予想
3. 今後の取り組み方針

- 1. 2022年3月期 第3四半期実績**
2. 2022年3月期 通期予想
3. 今後の取り組み方針

事業環境

- 産業機械は堅調 主に工作機械、半導体製造装置向け
- 自動車はサプライチェーン問題が想定よりも長期化
- 鋼材価格・海上運賃などの上昇継続 ● オミクロン株リスク

第3四半期 業績サマリー

| (億円) | Q3 | | Q3累計 | |
|----------------------|--------------|------------|---------------|---------------|
| | (10-12月) | 対前年同期 | (4-12月) | 対前年同期 |
| 売上高 | 2,150 | +6 +0.3% | 6,328 | +1,024 +19.3% |
| セグメント利益 ※ (対売上高率) | 43 (2.0%) | -23 -35.0% | 206 (3.3%) | +269 - |
| 営業利益 (営業利益率) | 51 (2.4%) | -6 -9.9% | 208 (3.3%) | +258 - |
| 税引前利益 | 53 | -5 -8.1% | 209 | +258 - |
| 当期利益 (親会社所有者帰属) | 43 | -0 -1.0% | 121 | +200 - |

※セグメント利益：営業利益からその他の営業損益（為替差損益ほか）を除いたもの

第3四半期を振り返りますと、上半期に続き産業機械は工作機械、半導体が堅調に推移しましたが、自動車については半導体をはじめサプライチェーンの問題による生産調整が想定より長期化しました。

また、鋼材価格や海上運賃の上昇も継続し、欧米をはじめ、オミクロン株の拡大の影響も出始めました。

そのような中で、2022年第3四半期YTDの数字は、

売上高 6,328億円 営業利益 208億円 営業利益率は3.3%

当期利益は121億円となりました。

対前年同期で 売上高は1,024億円の増収 営業利益は 258億円の増益、

当期利益は200億円の増益になりました。

4ページで説明の補足をします。

2022年3月期 第3四半期実績サマリー②

| (億円) | 21/3期 | | | 22/3期 | | 22/3期 対前年同期 | |
|------------|------------|----------|----------|----------|------------|-------------|--------|
| | Q3累計 実績 | Q1 実績 | Q2 実績 | Q3 実績 | Q3累計 実績 | 増減額 | 伸び率 |
| 売上高 | 5,303 | 2,135 | 2,043 | 2,150 | 6,328 | +1,024 | +19.3% |
| セグメント利益※ | -63 | 91 | 71 | 43 | 206 | +269 | - |
| (対売上高率) | (-1.2%) | (4.3%) | (3.5%) | (2.0%) | (3.3%) | | |
| 営業利益 | -50 | 90 | 67 | 51 | 208 | +258 | - |
| (営業利益率) | (-0.9%) | (4.2%) | (3.3%) | (2.4%) | (3.3%) | | |
| 税引前利益 | -49 | 93 | 63 | 53 | 209 | +258 | - |
| 当期利益 | -79 | 47 | 30 | 43 | 121 | +200 | - |
| (親会社所有者帰属) | | | | | | | |
| 換算レート1USD | 106.1 | 109.5 | 110.1 | 113.7 | 111.1 | +5.0 | +4.7% |
| " 1EUR | 122.4 | 132.0 | 129.8 | 130.1 | 130.6 | +8.3 | +6.7% |
| " 1CNY | 15.4 | 17.0 | 17.0 | 17.8 | 17.3 | +1.8 | +11.7% |

※セグメント利益：営業利益からその他の営業損益（為替差損益ほか）を除いたもの

● Q3の営業利益は一過性要因含む（減損 -90億円、土地譲渡 +98億円）
自動車部品事業

● Q3累計 対前年同期増収増益

当第3四半期連結会計期間において、企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行ったため、22/3期の第1四半期および第2四半期の利益項目にその修正が反映されております。

Copyright NSK Ltd. All Rights Reserved.

4

当第3四半期の営業利益には、自動車部品事業での減損損失90億円と土地の売却益の98億円が計上されており、ネットでプラス8億円の影響です。

また、足元の当第3四半期の10月から12月の3ヶ月の売上高は2,150億円、セグメント利益では43億円となりました。

3ページで示しましたとおり、売上高は対前年同期で6億円の増収、セグメント利益は23億円の減益となっています。

増収減益の主な要因は主に物量の影響となります。

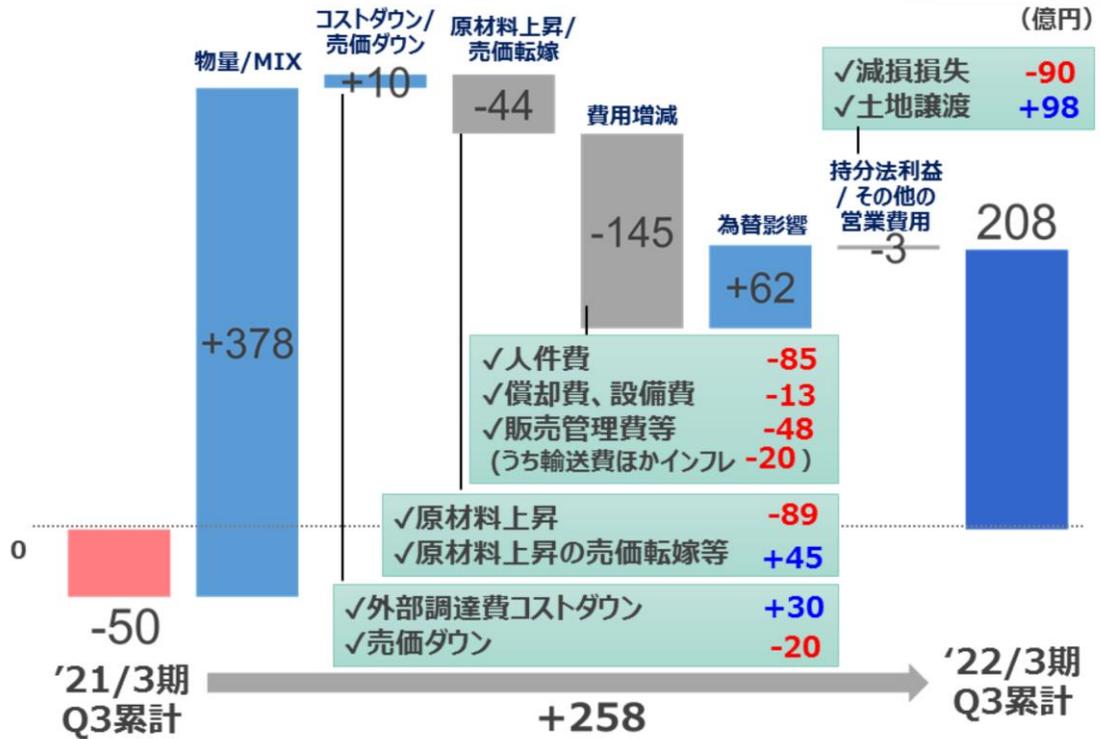
売上高は対前年で6億円の増収ですが、為替の影響を除くと約90億の減収となっており、この影響が効いています。

また、円安による為替益があったものの、調達コストの増加等もあり、遺憾ながら対前年同期で減益となりました。

それと、当第2四半期から当第3四半期にかけてセグメント利益が減少していますが、主な要因は自動車事業の減益です。事業別の業績のスライドにて改めてご説明します。

当第3四半期YTDの営業利益208億円につきまして、対前年同期で258億円の増益となった要因を次ページのVチャートで説明します。

営業利益 増減内訳 ('21/3期Q3累計 ⇒ '22/3期Q3累計) **NSK**



Copyright NSK Ltd. All Rights Reserved.

5

Vチャートについて左手側から順にご説明します。

物量/MIXは、為替の影響を除いた実質の売上増加分の740億円により、378億円の増益効果となりました。

コスト低減と売価下落については計画通りの進捗で対前年で10億円の改善です。

原材料価格は89億円上昇し、それに対し45億円の売値上げを進めました。

費用増減については対前年で145億円の費用増加になりました。

内訳は、労務費で85億円の増加で、前年度の雇用調整助成金など一過性の約50億円を除くと35億円の増加です。償却費、設備費は13億の増加、販売管理費等は48億円の増加になりました。増加の主な内容は、輸送費等のインフレの影響の20億円とステアリング事業の一過性費用の発生になります。

為替影響は円安効果で62億円の増益、持分法利益/その他の営業費用は3億円の減益。

結果、営業利益は208億円となり、対前年同期で258億円の増益となりました。

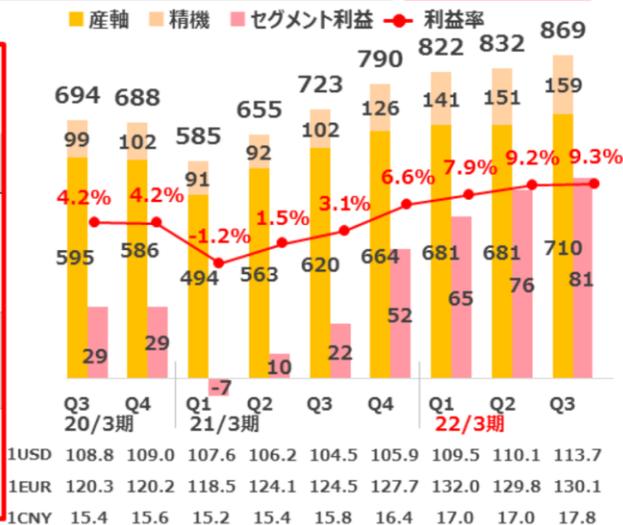
続いて、事業別の業績報告となります。

産業機械事業



(億円)

| | 21/3期 Q3累計 実績 | 22/3期 Q3累計 実績 | 対前年 同期 増減額 | 対前年 同期 伸び率 |
|-----------|---------------------|---------------------|------------------|------------------|
| 売上高 | 1,962 | 2,522 | +560 | +28.5% |
| 産業機械軸受 | 1,677 | 2,071 | +394 | +23.5% |
| 精機製品 | 285 | 451 | +165 | +58.0% |
| セグメント利益 | 25 | 222 | +197 | +787.9% |
| (対売上高率) | (1.3%) | (8.8%) | | |
| 換算レート1USD | 106.1 | 111.1 | +5.0 | +4.7% |
| ＃ 1EUR | 122.4 | 130.6 | +8.3 | +6.7% |
| ＃ 1CNY | 15.4 | 17.3 | +1.8 | +11.7% |



- 事業環境は前半実績に続いて好調 6四半期連続で増収増益
 - ・ 工作機械、半導体製造装置向け：市場環境は依然好調
 - ・ インフラ：風力、鉄道向け需要は横ばい継続
 - ・ E&E：自動車向けは部材不足による減産影響もあり
- 利益率はQ2に続き9%台で推移

Copyright NSK Ltd. All Rights Reserved.

こちらは 産業機械事業になります。

産業機械事業の当第3四半期累計の売上高は2,522億円になりました。

前年同期比560億円の増収で、約29%の伸びとなりました。

セグメント利益は222億円で、主に物量増により対前年同期でプラス197億円の増益、利益率は8.8%となっております。

当第3四半期の事業環境は、前半実績に続いて好調を維持しております。

工作機械、半導体設備装置向けの需要は依然好調であり、受注も高水準で推移しています。一方で 風車・鉄道の需要は前半に引き続き横ばいの状況ではありますが、産業機械事業は前年の第1四半期を底に、6 四半期連続で売上高の回復とともに収益の改善を進めることができました。

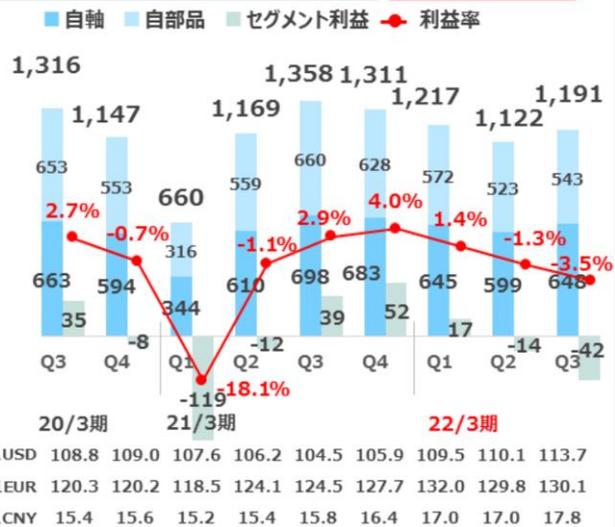
続いて自動車事業になります。7ページをご覧ください。

自動車事業



(億円)

| | 21/3期 Q3累計 実績 | 22/3期 Q3累計 実績 | 対前年 同期 増減額 | 対前年 同期 伸び率 |
|--------------------------------------|---------------------|---------------------|------------------|------------------|
| 売上高 | 3,186 | 3,530 | +343 | +10.8% |
| 自動車軸受 | 1,652 | 1,892 | +241 | +14.6% |
| 自動車部品 | 1,535 | 1,637 | +103 | +6.7% |
| セグメント利益 (減損除く) (対売上高率) (-2.9%) | -92 | -39 | +53 | - |
| 営業利益※ (減損含む) (対売上高率) (-2.9%) | -92 | -130 | -37 | - |
| 換算レート1USD | 106.1 | 111.1 | +5.0 | +4.7% |
| ” 1EUR | 122.4 | 130.6 | +8.3 | +6.7% |
| ” 1CNY | 15.4 | 17.3 | +1.8 | +11.7% |



※セグメント利益には減損(その他営業費用)が含まれないため、自動車事業では営業利益を表示しています。

- グローバル自動車生産台数 Q3累計実績 56M台 (YoY -2%)
- Q3の売上高はサプライチェーン問題にて想定より下振れ。Q2→Q3増収減益
- Q3は自動車部品で減損損失計上。セグメント利益で赤字、軸受は黒字確保

Copyright NSK Ltd. All Rights Reserved.

こちらが自動車事業になります。

自動車事業の当第3四半期累計の売上高は3,530億円

セグメント利益はマイナス39億円です。

軸受事業は黒字を継続していますが、自動車部品事業の赤字により自動車事業全体で2四半期連続の赤字となりました。さらに、当第3四半期では自動車部品事業で減損損失を計上しており、営業利益ではマイナス130億円、営業利益率はマイナス3.7%となりました。

対前年同期で売上高は343億円の増収、営業利益は37億円の減益です。

当第3四半期のグローバル自動車生産台数の累計実績は、IHSマーケットによると約5,600万台となっており、半導体など部材の供給問題が続き、自動車生産台数は対前年同期でマイナス2%となっています。

当社の売上高はサプライチェーン問題により計画より下振れましたが、対前年同期で約11%、為替の影響を除いても7%のプラス回復をすることができました。

続いて、当第2四半期から当第3四半期にかけての増収減益となりました減益要因です。5ページでご説明したとおり、第3四半期においてステアリング関係の一過性費用を計上したこと、鋼材価格等のインフレの拡大、さらに需要変動の中、生販差の影響が発生したことによります。

当第3四半期の実績の説明は以上になります。

続いて通期予想についてです。9ページをご覧ください。

1. 2022年3月期 第3四半期実績
2. 2022年3月期 通期予想
3. 今後の取り組み方針

事業環境

- 産業機械事業は堅調
- 自動車事業はサプライチェーン・オミクロン株による減産影響継続
- 鋼材価格・海上運賃などの上昇継続
- Q4の為替レートを見直し (USD114円 EUR130円 中国元17.8円)

11月公表の通期予想を見直し

| (億円) | | 対 11月予想差 | |
|----------------------|---------------|----------|--------|
| 売上高 | 8,600 | - | - |
| セグメント利益 ※ (対売上高率) | 300 (3.5%) | -60 | -16.7% |
| 営業利益 (営業利益率) | 300 (3.5%) | -145 | -32.6% |
| 税引前利益 | 300 | -140 | -31.8% |
| 当期利益(親会社所有者帰属) | 195 | -105 | -35.0% |

※セグメント利益：営業利益からその他の営業損益（為替差損益ほか）を除いたもの

- 配当金は計画を据え置き 年間25円/株 (中間10円/株、期末15円/株)

Copyright NSK Ltd. All Rights Reserved.

9

2022年1月31日の決算発表時に公表させていただきましたとおり、11月公表の通期予想を下方修正いたしました。

事業環境の前提は、産業機械事業は好調継続。一方で自動車事業はサプライチェーンリスクの継続とオミクロン株による操業調整による減収を織り込みました。

鋼材価格の上昇および電力等のインフレの影響拡大については、当第3四半期までの実績と、さらに見込まれる影響を織り込みました。

なお、為替レートは当第3四半期の実績レートを当第4四半期の見通しに適用しました。

売上高は オミクロン株の拡大や部品不足の影響で、実質50億円の下振れを見込みますが為替レートの見直しによる換算差のプラス影響を加味し、8,600億円を維持します。

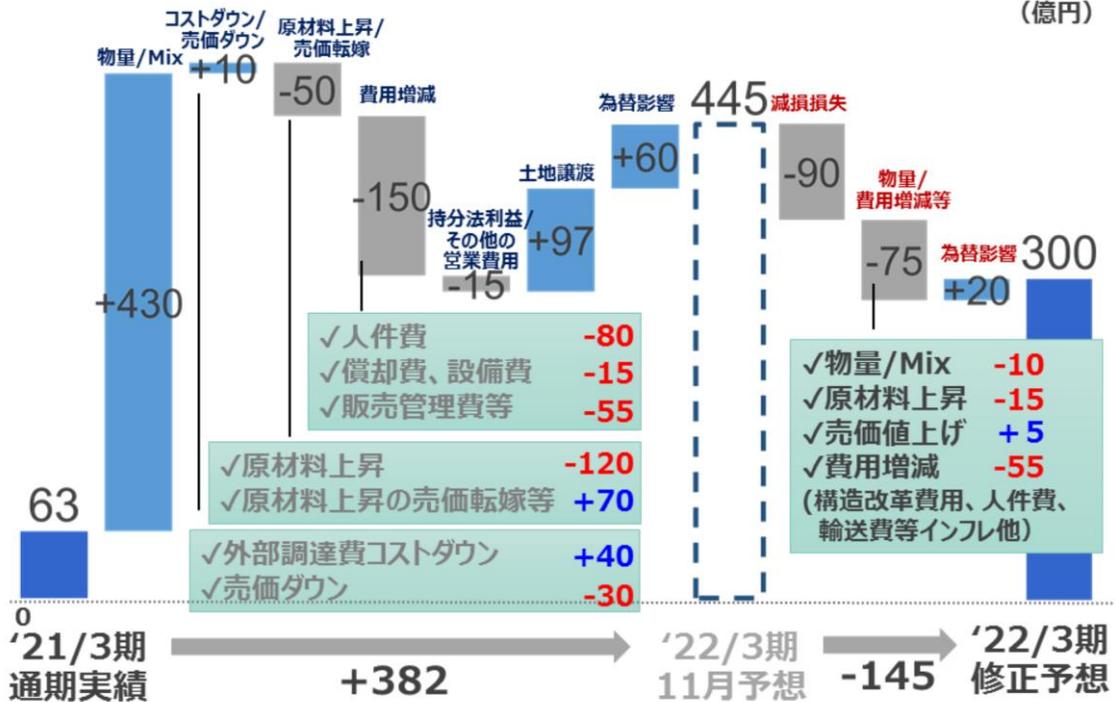
セグメント利益については、60億円下方修正して300億円。営業利益については第3四半期で計上しました減損損失の90億円等も反映し、145億円下方修正の300億円。当期利益は195億円への修正となります。

なお、配当金については計画どおりの1株当たり年間25円で予定させていただきます。

利益の見直しの詳細については、次ページのVチャートでご説明します

営業利益 増減内訳 (21/3期 ⇒ 22/3期修正予想)

(億円)



スライドの左側が前年実績から11月の公表時の業績予想までの利益増減になります。そして右側が今回の業績予想の修正内容になります。

11月公表の業績予想では、コストダウンの計画は予定どおりの実行を見込み、原材料価格の上昇は当初想定60億円を大幅に上回る120億円に拡大することを織り込みました。また、市場への売価是正の目標を当初計画の40億円から70億円へ引き上げました。費用増減については、当初計画の105億円増から150億円増と45億円の増加を織り込みました。内訳は、人件費が10億円。販売管理費等は35億円の増加で、主に輸送費用のインフレ影響です。そして、為替影響を見直し、物量減の影響も入れて合計で85億円下方修正し、445億円の業績見込みとしました。

今回の修正では、為替影響を除いた主に自動車の減産影響による物量減少で10億円の減益。原材料上昇に対する売価転嫁は11月の計画プラスアルファを達成する見込みですが、原材料価格は足元でさらに上昇しており、売価転嫁と原材料上昇の影響がネットで10億円の減益要因となります。費用は55億円の増加で、主な内訳は、ステアリング事業における一過性費用や、産機の物量増加に対応するための労務費増加、そして電力や副資材などのインフレ影響の拡大です。なお、ステアリング事業の一過性費用には構造改革に関する費用を第4四半期に織り込んでいます。

これらに自動車部品事業の減損損失90億円と、為替の影響プラス20億円を合わせて11月公表の445億円の営業利益から145億円減益の300億円に修正させていただきました。

2022年3月期 通期予想 セグメント別

産業機械事業 工作機械、半導体製造装置向け 堅調が継続

| (億円) | 11月予想 | 前半実績 | Q3実績 | 22/3期 | | 21/3期 |
|---------|--------|--------|--------|---------|--------|--------|
| | | | | Q4予想 | 修正予想 | 通期実績 |
| 売上高 | 3,400 | 1,653 | 869 | 908 | 3,430 | 2,752 |
| 産業機械軸受 | 2,785 | 1,362 | 710 | 744 | 2,815 | 2,341 |
| 精機製品 | 615 | 292 | 159 | 164 | 615 | 411 |
| セグメント利益 | 320 | 142 | 81 | 93 | 315 | 77 |
| (対売上高率) | (9.4%) | (8.6%) | (9.3%) | (10.2%) | (9.2%) | (2.8%) |

自動車事業 自動車生産台数 11月予想 76M台 → 75M台 -1%

| (億円) | 11月予想 | 前半実績 | Q3実績 | 22/3期 | | 21/3期 |
|---------|--------|--------|---------|--------|---------|---------|
| | | | | Q4予想 | 修正予想 | 通期実績 |
| 売上高 | 4,800 | 2,339 | 1,191 | 1,260 | 4,790 | 4,497 |
| 自動車軸受 | 2,550 | 1,245 | 648 | 658 | 2,550 | 2,335 |
| 自動車部品 | 2,250 | 1,094 | 543 | 603 | 2,240 | 2,162 |
| セグメント利益 | 0 | 3 | -42 | 0 | -40 | -40 |
| (対売上高率) | (0.0%) | (0.1%) | (-3.5%) | (0.0%) | (-0.8%) | (-0.9%) |

(前年 77M台)

続いて、事業セグメント別の数字です。

上段が 産業機械事業になります。

先ほど 通期予想で申し上げたように当第4四半期も工作機械や半導体製造装置向け需要は堅調が継続すると考えています。通期では3,430億円の売上高で、

セグメント利益では315億円 セグメント利益率9.2%を見込んでいます。

11月公表の予想に対し、30億円の増収で、セグメント利益は人件費とインフレの影響により5億円の減益を見込んでいます。

なお、第4四半期の利益率は10%台の回復を目指します。

続いて自動車事業です。

自動車の生産台数の見込みですが、11月予想時は半導体不足等による供給問題も自動車メーカーの巻き返しが行われるという前提で7,600万台と見ていました。

しかし、後半もサプライチェーン問題は回復の途上にあり、オミクロン株の影響も含め、

さらに約100万台の減産を織り込み、通期で7,500万台と見込んでいます。

その中で、売上高は11月予想に対し マイナス10億円の4,790億円、セグメント利益はマイナス40億円の見込みとなります。第4四半期では第3四半期からの生産台数の回復による物量増と鋼材価格交渉の反映も含め、営業利益の黒字回復を目指します。

次に今後の取り組み方針について説明致します。

13ページを御覧ください。

1. 2022年3月期 第3四半期実績
2. 2022年3月期 通期予想
3. 今後の取り組み方針

✓ リスクと課題

1. インフレ拡大による収益圧迫

・鋼材価格の大幅上昇、海上運賃や電力等も上昇継続

- 計画した鋼材上昇の市場価格への反映の完了とさらなる鋼材値上がり分の価格交渉の開始
- 海上運賃・電力等も含めたインフレ拡大への対応

2. サプライチェーン問題、新型コロナリスクの継続

・不安定稼働、操業停止によるアウトプットの減少
・生産変動と生産体制のアンマッチの常態化による生産効率悪化

- サプライチェーンリスクや新型コロナリスクを前提とした在庫運営の継続

こちらが今後の取り組み方針になります。

これまでご説明させていただきましたように、今期のポイントは、1つ目は鋼材、その他インフレが非常に激しく、大きく、早く進んでいること。そして2つ目がコロナ、半導体不足をはじめとした供給問題が想定より長引いていること。それに伴い、自動車生産の回復の遅れや、需要のアップダウンが大きくなっていること。そして、最後にステアリング事業です

この課題認識のもと、13～14ページにポイントを記載させていただきました。

1つ目が、インフレ拡大による収益の圧迫とその対策です。11月時点で織り込んだ原材料上昇120億円に対する市場価格への反映の完了を目指していますが、問題は、海上運賃や電力等も含めたインフレの拡大への対応です。これまで我々の原価低減努力の中で吸収してきましたが、今後の動向次第では、価格転嫁も含めた新たな検討が必要と考えています。

2つ目は、サプライチェーンそして新型コロナリスクの継続です。サプライチェーン問題に起因したお客様の増減産による不安定稼働や、新型コロナ感染拡大による操業停止によってアウトプットが減少するリスクです。

生産変動と生産体制のアンマッチが常態化する中で、生産効率の悪化による収益の悪化をどのようにミニマム化していくか、です。現在、在庫が増えた状態ですが、この在庫レベルを維持して運営していくことに基本なると考えます。

続きまして14ページです。

✓ リスクと課題

3. サプライチェーンの回復と需要増加への対応

- **適正人員の確保と生産性の回復**
- **供給能力の増強計画の実行（E&E需要の拡大）**

✓ ステアリング事業の構造改革

・収益力の改善を進めるため 構造改革を行う

- **①拠点の再編 ②収益改善 ③人員配置転換**

サプライチェーンが回復していく中で、需要の回復に向けての適正人員を確保していくことを重点に置きます。ご存じのように労働力不足のため、各地で増産対応の人手に苦勞しています。そのためここをキープし、コストとして受け入れて運営していくということです。ボリュームが戻ってきたときに、その拡大機会を収益に結びつけていくことを狙います。

また、中長期目線になりますが、特に電動化で我々の並径・小径ビジネスは右肩上がりに伸びていきますので、ここの増強計画をしっかりと進めていきます。

最後に、ステアリング事業の構造改革についてご説明申し上げます。

ステアリング事業は、コラムタイプから下流アシストタイプへの技術トレンドの移行によって収益が縮小する中、下流アシストタイプへの商品ラインナップを広げて受注活動を進めてきました。開発は完了しましたが、受注活動は途中です。フォルクスワーゲンとの協業開始は1つの成果ですが、当中期計画で想定した回復のシナリオに遅れが出ているため今後の事業計画を見直し、その計画をもとに減損判定を行いました。その結果、90億円の減損損失を、当期の第3四半期に計上しました。

これまでもステアリング事業の縮小に伴う固定費等の圧縮は進めてきましたが、事業環境の大きな変化の中で、さらに収益改善を進める必要が出てきました。我々としては、ここに掲げました、拠点の再編、収益改善、人員配置転換、この3つを柱に黒字事業への転換を進めていきます。

➢ スクリプトは次ページに続いています。

(補足資料)

1つ目の拠点の再編では、各地拠点での生産品目等の見直しによる再編で、地域での固定費の圧縮を進めていく施策になります。

2つ目が収益改善です。グローバルで生産品目の集約や最適調達を進め、コスト改善を進めます。

3つ目が、人員の配置転換です。技術、生産、また、間接部門も含めてリソースの再配置を行うことでステアリング事業の固定費を圧縮するとともに、これからの成長を考え、NSK全体での人材の活用やリカレント教育も実施して、このリソースを有効に活用していきます。

この構造改革の狙いとしては、来期末までにプロジェクトを完了させ、その中で黒字体質への転換を目指すことです。それと同時に、今仕掛けている拡販のための新規開発車両への対応とその受注活動も継続していきます。詳細は、次の中期経営計画の事業計画の中で、皆さんにご紹介する予定です。

以上、簡単ですが、2022年3月期第3四半期の決算説明とさせていただきます。

補足. 事業セグメント別業績

| (億円) | | 21/3期 | | | 22/3期 | | | 22/3期 | | | 22/3期 修正予想 |
|------|--------------|--------|---------|---------|----------|--------------|--------------|---------|--------------|--------------|---------------|
| | | Q3実績 | Q3累計 | 通期 | Q3実績 | 対前年同期 増減額 | 対前年同期 伸び率 | Q3累計 | 対前年同期 増減額 | 対前年同期 伸び率 | |
| 合計 | 売上高 | 2,144 | 5,303 | 7,476 | 2,150 | +6 | +0.3% | 6,328 | +1,024 | +19.3% | 8,600 |
| | セグメント利益 | 67 | -63 | 49 | 43 | -23 | -35.0% | 206 | +269 | - | 300 |
| | (対売上高率) | (3.1%) | (-1.2%) | (0.7%) | (2.0%) | | | (3.3%) | | | (3.5%) |
| | 営業利益 | 57 | -50 | 64 | 51 | -6 | -9.9% | 208 | +258 | - | 300 |
| | (営業利益率) | (2.6%) | (-0.9%) | (0.9%) | (2.4%) | | | (3.3%) | | | (3.5%) |
| 産業機械 | 売上高 | 723 | 1,962 | 2,752 | 869 | +146 | +20.2% | 2,522 | +560 | +28.5% | 3,430 |
| 事業 | 産業機械軸受 | 620 | 1,677 | 2,341 | 710 | +89 | +14.4% | 2,071 | +394 | +23.5% | 2,815 |
| | 精機製品 | 102 | 285 | 411 | 159 | +57 | +55.5% | 451 | +165 | +58.0% | 615 |
| | セグメント利益 | 22 | 25 | 77 | 81 | +58 | +263.0% | 222 | +197 | +787.9% | 315 |
| | (対売上高率) | (3.1%) | (1.3%) | (2.8%) | (9.3%) | | | (8.8%) | | | (9.2%) |
| 自動車 | 売上高 | 1,358 | 3,186 | 4,497 | 1,191 | -167 | -12.3% | 3,530 | +343 | +10.8% | 4,790 |
| 事業 | 自動車軸受 | 698 | 1,652 | 2,335 | 648 | -50 | -7.2% | 1,892 | +241 | +14.6% | 2,550 |
| | 自動車部品 | 660 | 1,535 | 2,162 | 543 | -117 | -17.8% | 1,637 | +103 | +6.7% | 2,240 |
| | セグメント利益 | 39 | -92 | -40 | -42 | -81 | - | -39 | +53 | - | -40 |
| | (対売上高率) | (2.9%) | (-2.9%) | (-0.9%) | (-3.5%) | | | (-1.1%) | | | (-0.8%) |
| | 営業利益 | 39 | -92 | -40 | -132 | -171 | - | -130 | -37 | - | -130 |
| | (対売上高率) | (2.9%) | (-2.9%) | (-0.9%) | (-11.1%) | | | (-3.7%) | | | (-2.7%) |
| その他 | 売上高 | 120 | 301 | 429 | 146 | +26 | +21.5% | 441 | +141 | +46.7% | 605 |
| | 営業利益 | 5 | 3 | 10 | 4 | -1 | -26.1% | 21 | +18 | +665.7% | 25 |
| | (対売上高率) | (4.3%) | (0.9%) | (2.3%) | (2.6%) | | | (4.7%) | | | (4.1%) |
| | 売上高消去 | -56 | -146 | -203 | -55 | +1 | - | -166 | -19 | - | -225 |
| | その他の営業損益/調整額 | -10 | 15 | 17 | 99 | +109 | - | 95 | +80 | - | 90 |

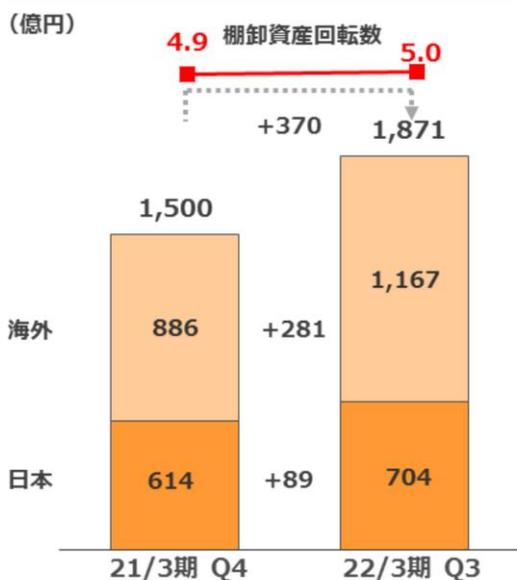
※セグメント利益：営業利益からその他の営業損益（為替差損益ほか）を除いたもの

補足. 顧客地域別売上高

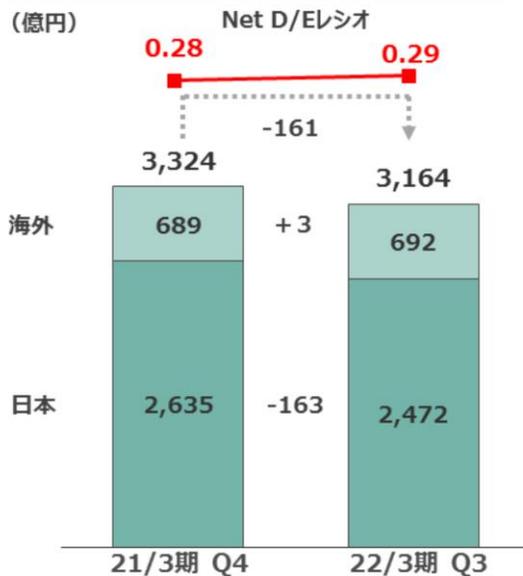
| (億円) | 21/3期 | | 22/3期 | | | 22/3期 | | |
|----------------|------------------|------------------|------------------|------|--------|------------------|--------|--------|
| | Q3実績 | Q3累計 | Q3実績 | 増減額 | 伸び率 | Q3累計 | 増減額 | 伸び率 |
| 売上高 | 2,144 | 5,303 | 2,150 | +6 | +0.3% | 6,328 | +1,024 | +19.3% |
| 日本 | 793 | 1,919 | 775 | -17 | -2.2% | 2,343 | +424 | +22.1% |
| 海外合計 (海外比率) | 1,352 (63.0%) | 3,384 (63.8%) | 1,375 (63.9%) | +23 | +1.7% | 3,985 (63.0%) | +601 | +17.8% |
| 米州 | 300 | 767 | 299 | -1 | -0.4% | 903 | +136 | +17.7% |
| 欧州 | 271 | 652 | 269 | -1 | -0.5% | 804 | +152 | +23.4% |
| 中国 | 475 | 1,268 | 482 | +7 | +1.5% | 1,341 | +72 | +5.7% |
| その他アジア | 306 | 697 | 324 | +19 | +6.1% | 937 | +241 | +34.5% |
| 換算レート | | | | | | | | |
| 1USD | 104.5 | 106.1 | 113.7 | +9.2 | +8.8% | 111.1 | +5.0 | +4.7% |
| 1EUR | 124.5 | 122.4 | 130.1 | +5.6 | +4.5% | 130.6 | +8.3 | +6.7% |
| 1CNY | 15.8 | 15.4 | 17.8 | +2.0 | +12.5% | 17.3 | +1.8 | +11.7% |

補足. 棚卸資産/有利子負債

棚卸資産



有利子負債



| 換算レート | 21/3期Q4末 | 22/3期Q3末 |
|-------|----------|----------|
| 1USD | 110.7 | 115.0 |
| 1EUR | 129.8 | 130.5 |
| 1CNY | 16.9 | 18.1 |

補足. 設備投資額/減価償却費/研究開発費

| (億円) | 21/3期 | 22/3期 | | | |
|--------------------|-------|-------|------|------|------|
| | 通期実績 | Q1実績 | Q2実績 | Q3実績 | 通期予想 |
| 設備投資額 | 373 | 52 | 136 | 119 | 510 |
| 設備投資額 (リース除く) | 341 | 46 | 89 | 114 | 510 |
| 減価償却費 | 545 | 139 | 142 | 146 | 550 |
| 減価償却費 (リース除く) | 500 | 128 | 130 | 134 | 505 |
| 研究開発費 (制度決算ベース) | 168 | 44 | 50 | 52 | 170 |
| 参考) 技術関連費用 | 286 | 74 | 77 | 79 | 300 |

MOTION & CONTROL™

NSK

NSKの企業理念

NSKは、MOTION & CONTROL™を通じ、
円滑で安全な社会に貢献し、
地球環境の保全をめざすとともに、グローバルな活動によって、
国を越えた人と人の結びつきを強めます。

NSKビジョン2026

あたらしい動きをつくる。

あらたなライフスタイルを生み出し、笑顔あふれる明日を実現するための、
次の「動き」をつくる。

社会のニーズをいち早く発掘し、世界中の期待を超える、
誰も想像できなかった「動き」をカタチにする。

私たちが未来を動かしていく。

Copyright NSK Ltd. All Rights Reserved.